

第 16 回耐火物統一国際会議

Unified International Technical Conference on Refractories
16th Biennial Worldwide Conference on Refractories

募金趣意書

第 16 回耐火物統一国際会議組織委員会

第16回耐火物統一国際会議

テーマ:「未来の耐火物:更なる高温技術を追求する顧客・生産者・学界の協働」

耐火物をご存知のように各種産業の高温部材として、一定レベルの損傷を許容して使用される基盤材料といえる材料ですが、耐火物に対する産業界の要望は厳しいものがあり、高温材料としての耐火物も従来のものがそのまま使用されるのではなく、日々新しいものへと進歩しております。

耐火物統一国際会議(Unified International Technical Conference on Refractories:以下、UNITECR)は、1980年代に我が国の国際貢献を目的に耐火物技術協会が主催した国際耐火物会議(1983年と1987年に東京で開催)から発展的に結成されたものです。世界4地区の耐火物学術団体(耐火物技術協会/日本、The American Ceramic Society/北米、The German Refractories Association/ドイツ、Latin America Association of Refractory Manufacturers/中南米)が「全世界の耐火物技術を向上」をテーマに、1989年から隔年に主催している世界で最も権威のある耐火物に関する国際学術会議であり、耐火物技術の国際的な発展と耐火物の研究開発技術者の交流ネットワーク作りに多大の貢献を果たしてきております。

日本でのUNITECRの開催(耐火物技術協会・耐火物協会の共催)は、1995年に京都、2003年に大阪、2011年に京都で、いずれも700～800名を超える参加者(海外からの参加者が約50%)、150～200件の研究開発発表と活況を呈し、盛大な国際会議として成功裏に運営を終えることができました。この度、4回目の日本開催となるUNITECR 2019が正式決定され、以下の開催スケジュールを計画しております。

開催期間 : 2019年 10月13日～10月16日

開催場所 : 横浜市(パシフィコ横浜 会議センター)

従来、我が国が耐火物技術をリードしてきましたが、最近では中国、ブラジル、インドなどの新興国の追い上げが激しくなってきました。4回目の日本開催に当たり、我が国が耐火物技術を今後もリードし、プレゼンスを向上させることが必要と考えております。

我が国における耐火物技術の優位点は、耐火物技術に対し生産者、顧客、学界の3者の協同にあります。具体的には、操業条件に即した高度な特性を持った耐火物を生産者が提供し、それを顧客との協同により操業と耐火物寿命の観点から最適条件を探し出し、科学的にそれらを解析することで耐火物技術の向上を図っています。それに対し、海外では生産者と学界の協同はあっても、顧客との協同にまでには至っていません。そこで、UNITECR 2019のテーマを、「未来の耐火物:更なる高温技術を追求する顧客・生産者・学界の協働」としました。このテーマは未来の耐火物技術の方向を指し示すだけではなく、耐火物の顧客に対しても有益な技術を提供できるものと思料します。また、この観点から多くのユーザーからの積極的な参加を期待するものです。さらには、耐火物技術における我が国のプレゼンスを向上させ、耐火物の生産者・顧客一体となった技術提供などの今後の産業活動にも寄与することが期待されます。

UNITECR 2019に向けての万全の準備と円滑な会議運営を目的に、組織委員会を2016年8月に、また、実行委員会を2017年春に結成し、両協会の総力を挙げて取り組んでおります。耐火物技術における我が国のプレゼンスの向上に向けて、関係各位みなさまのご賛同とご支援をお願い申し上げます。

第16回耐火物統一国際会議組織委員会
委員長 黒田浩太郎

会議の概要

1. 会議の名称

和文名 : 第16回耐火物統一国際会議

英文名 : Unified International Technical Conference on Refractories
16th Biennial Worldwide Conference of Refractories

2. 主催・共催機関などの名称

(1) 耐火物技術協会・第16回耐火物統一国際会議組織委員会

(2) 共催

耐火物協会

The American Ceramic Society (アメリカ・セラミックス協会)

German Refractories Association (ドイツ耐火物協会)

Association Latinoamericana de Fabricantes de Refractorios (ラテンアメリカ耐火物生産者協会)

(3) 後援 経済産業省(予定)

(4) 協賛(予定)

(社)日本セラミックス協会 (社)日本鉄鋼連盟 (社)日本鉄鋼協会 (社)セメント協会

(社)日本硝子製品工業会 (社)日本工業炉協会 (社)日本鑄造協会

(独)物質・材料研究機構

(5) 協力

独立行政法人国際観光振興機構

3. 開催期間 2019年10月13日(日)～10月16日(水) 4日間

4. 開催場所

〒231-0023 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜 会議センター

TEL 045-221-2155

5. 実施責任者

第16回耐火物統一国際会議実行委員会

委員長 金重利彦

〒104-0061 東京都中央区銀座7-3-13 ニューギンザビル4階

耐火物技術協会 TEL 03-3572-0705 FAX 03-3572-0175

6. 国際会議の性格と目的

耐火物は産業用高温材料として、鉄鋼、非鉄金属、セメント、ガラス生産のため、あるいは発電所、ボイラー、焼却炉、焼成炉等に欠かすことのできないものです。耐火物は一度施工したら未来永劫使用できるものではなく、ある程度の損傷を許容して使用される材料であり、その損傷量を抑えることが高温材料を使用する顧客においては重要な要件の一つです。そのため、顧客における耐火物への要求は厳しいものがあり、高温材料としての耐火物も従来のものがそのまま使用されるのではなく、日々新しいものへと進

歩しております。また、耐火物技術の発展は、現代社会における人間の生産活動に伴うCO₂排出量削減にとっても直接的に不可欠なことでもあります。

本会議は、UNITECR(耐火物統一国際会議)が2年ごとに開催してきた世界大会の16回目にあたりますが、ここには全世界の耐火物メーカー、ユーザー、研究者が集まります。会議では耐火物技術の学術的成果は勿論のこと、基礎技術、統一測定法による各種測定結果、世界各地で実施され成果の上がった事例の報告、実用的原料の紹介等、最新の研究発表と情報交換が行われます。このような耐火物に関する総合的な国際会議は、本会議が唯一のものであり、参加人員も毎回千名近くを数え、世界中の関係者を網羅しており、世界の耐火物関係の科学、産業の発展に大きく寄与しております。

7. 日本開催の経緯と意義

(1) 経緯

日本が耐火物技術の国際貢献を目的に1983年と1987年に独自開催した国際会議がきっかけとなり、「全世界の耐火物技術を向上」をテーマに世界の耐火物技術交流の組織“Unified International Technical Conference on Refractories (UNITECR)”が結成されました。第1回はアメリカで行われ、以後ヨーロッパ、中南米、日本と持ち回りで開催されており、今回4巡目で日本開催となります。近年は、中国、インドなどアジア地区における耐火物産業の発展も著しく、アジア・オセアニア地区を代表して世界耐火物技術交流会議を開催し、国際貢献することは誠に意義のある事と考えます。

過去15回のUNITECRにおいて、我が国はリーダーシップを発揮し、全世界の耐火物技術向上を牽引してきた経緯があります。

| 回数 | 開催年 | 開催地 | 参加国数 | 参加人員 |
|------|------|--------------|------|------|
| 第1回 | 1989 | アナハイム(米国) | 30 | 850 |
| 第2回 | 1991 | アーヘン(ドイツ) | 34 | 1070 |
| 第3回 | 1993 | サンパウロ(ブラジル) | 36 | 825 |
| 第4回 | 1995 | 京都(日本) | 39 | 937 |
| 第5回 | 1997 | ニューオリンズ(米国) | 47 | 1160 |
| 第6回 | 1999 | ベルリン(ドイツ) | 48 | 851 |
| 第7回 | 2001 | カンクーン(メキシコ) | 48 | 600 |
| 第8回 | 2003 | 大阪(日本) | 37 | 676 |
| 第9回 | 2005 | オーランド(米国) | 36 | 788 |
| 第10回 | 2007 | ドレスデン(ドイツ) | 44 | 958 |
| 第11回 | 2009 | サルバドール(ブラジル) | 37 | 600 |
| 第12回 | 2011 | 京都(日本) | 34 | 779 |
| 第13回 | 2013 | ビクトリア(カナダ) | 36 | 650 |
| 第14回 | 2015 | ウィーン(オーストリア) | 46 | 904 |
| 第15回 | 2017 | サンチアゴ(チリ) | | |

(2) 日本開催の目的と意義

当初テーマとした「全世界の耐火物技術を向上」に対しては、過去15回の開催で一定レベル達成されたものと認識します。そこで、4回目の日本開催に当たり、我が国が耐火物技術を今後もリードし、プレゼ

ンスを向上させる新しいテーマが必要と考えました。

我が国における耐火物技術の優位点は、耐火物技術に対し生産者、顧客、学界の3者の協同にあります。具体的には、操業条件に即した高度な特性を持った耐火物を生産者が提供し、それを顧客との協同により操業と耐火物寿命の観点から最適条件を探し出し、それらを科学的に解析することで耐火物技術の向上を図っています。それに対し、海外では生産者と学界の一部の協同はあっても、顧客との協同にまで至っていません。

そこで、UNITECR 2019のテーマを、「未来の耐火物: 更なる高温技術を追求する顧客・生産者・学界の協働」としました。このテーマは未来の耐火物技術の方向を指し示すだけでなく、我が国の耐火物技術における我が国のプレゼンスを向上させるものと思料されます。

さらに、耐火物の顧客に対しても有益な技術を提供できるものと考えますし、この観点から多くのユーザーからの積極的な参加を期待するものです。また、我が国の耐火物研究の一層の活性化を図り、耐火物技術における我が国のプレゼンスを向上させ、耐火物の生産者・顧客一体となった技術提供などの今後の産業活動にも寄与することが期待されます。

8. 開催計画

(1) 会議日程

- 10月13日(日) 登録・IEB(International Executive Board)会議・歓迎パーティ
- 10月14日(月) 登録・開会式・特別講演・一般講演・展示会
- 10月15日(火) 一般講演・展示会
- 10月16日(水) 一般講演・展示会・閉会式・バンケット

(2) 主要項目

メインテーマ: 未来の耐火物: 更なる高温技術を追求する顧客・生産者・学界の協働

"Refractories for the Future: Collaboration among Customers, Manufactures and Academia in Pursuit for Further High-Temperature Technology"

セッション内容: 環境と耐火物、不定形耐火物、製鉄・製鋼用耐火物、非鉄・セメント用耐火物、ガラス用耐火物、断熱用耐火物、生産技術、原料、試験法、耐火物技術教育、顧客・学会との協働

(3) 参加予定者 国内 380名、海外420名 合計 800名

(4) 参加国・地域 約50の国と地域を予定(あいうえお順)

アイルランド、アメリカ、アルゼンチン、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、ウクライナ、エジプト、オーストラリア、オーストリア、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、コロンビア、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スロバキア、タイ、台湾、チェコ、中国、チリ、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、ハンガリー、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ベトナム、ベネズエラ、ペルー、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、南アフリカ、メキシコ、ユーゴスラビア、ルクセンブルグ、ロシア

9. 寄付金を必要とする理由

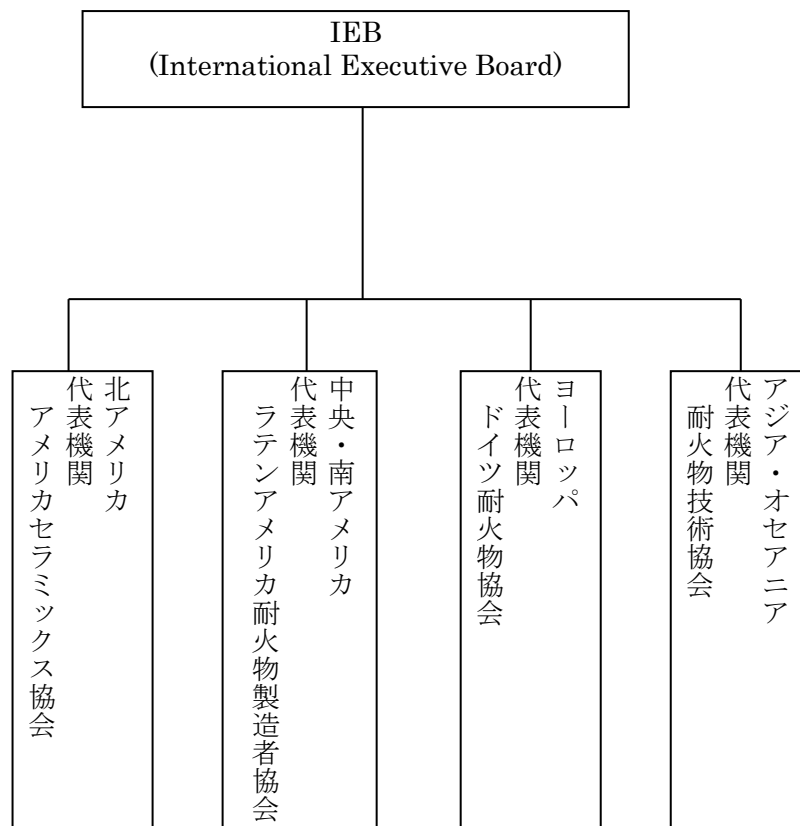
本国際会議は、国内380名、海外420名、計800名の参加が予定され、準備運営等に関する総経費は、86,850千円が見込まれています。これらの諸経費は、本来参加登録費等で賄うことが建前ではありますが、広く参加を即すには、個人の負担を軽くすることが必要です。特に、耐火物技術者の今後の増加が予想されるアジア、中南米、東欧諸国などの新興国からの本会議への参加を促し、増加させることが必要と考

えます。以上のことから、総額 86,850千円に対し、参加費等自己負担額を65,250千円、諸収入等9,600千円、を除く12,000千円を諸企業、及び諸団体からのご援助に頼らざるを得ないのが現状です。従いまして、上記費用を本会議に賛同いただける関係各位皆様からの寄付金にて充当したいと存じます。

10. 収支予算(案)

| 収支区分 | 金額(単位 千円) |
|------------------|-----------|
| (収入) | |
| 1. 自己負担金(参加登録費等) | 65,250 |
| 2. 諸収入等 | 9,600 |
| 3. 寄付金等 | 12,000 |
| 収入合計 | 86,850 |
| (支出) | |
| 1. 会議準備費 | 21,760 |
| 2. 会議運営費 | 57,160 |
| 3. 展示経費 | 5,200 |
| 4. 募金経費 | 1,040 |
| 5. 事後処理費 | 1,690 |
| 支出合計 | 86,850 |

11. 耐火物統一国際会議の組織



構成メンバー

IEB:各地域代表機関 3名×4=12名

終身特別会員 (UNITECR Distinguished Life Member) 35名

12. 寄附金募集要項

(1) 募金の名称

第16回耐火物統一国際会議寄附金

(2) 募金の目標額

12,000千円（総額86,850千円の内）

(3) 募集期間

自：2017年10月16日

至：2019年10月11日（会議開催日前2日まで）

(4) 寄附金の使途

第16回耐火物統一国際会議の準備ならびに運営に関する費用に充当します。

(5) 寄附金申し込み先

独立行政法人国際観光振興機構 MICEプロモーション部 誘致推進グループ交付金担当

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-1 細井ビル4階

電話：03-6691-4852 ファックス：03-6856-1330

(6) 寄附金振込み方法

申込書を国際観光振興機構にお送りください。

寄附金申込書を受領し確認次第、国際観光振興機構より寄附金申込受理書を送付いたします。

寄附金申込受理書を受領後、指定口座番号にお振込み下さい。

(7) 税法上の扱い

この寄附金は、特定公益増進法人である独立行政法人国際観光振興機構への寄付として、税法上の一般寄附金とは別途に損金参入等の優遇措置が講ぜられます。